

2020年度中央競技団体のコンプライアンス状況確認のためのモニタリング  
Webアンケート回答結果について

（ アンケート実施 独立行政法人日本スポーツ振興センター  
資料作成 一般社団法人日本フライングディスク協会 管理本部 ）



# 基本情報

- 実施目的：スポーツの現場におけるコンプライアンス（法令や規則等の遵守）状況とその度合いの確認
- 実施時期：2021年1月16日～2月1日
- 回答率：8.7%（以下、内訳）
  - 競技者（2019年度日本代表選手） 117 /226（51.8%）
  - 指導者（2019年度日本代表選手団監督・コーチ等） 18/16（112.5%）
  - 競技者（2020年度A会員） 129 /2779（4.64%）
- 備考：回答結果を基に日本スポーツ振興センターや当協会が特定の事案を特定することはありません。

# アンケート結果（2019年度日本代表選手）

	枠組み	カテゴリ	基準	平均点	シグナル
Q1	暴力	暴力の状況	A基準	100.0	
Q2		暴言の状況	A基準	95.8	
Q3		暴力につながりそうな状況・雰囲気	B基準	92.3	
Q4		Q3がyes→それが見られる場面	-	-	-
Q5		暴力は致し方ないという考え方・雰囲気	B基準	95.4	
Q6		パフォーマンス不調によるプレッシャー・イライラからの暴力につながりそうな雰囲気	B基準	93.4	
Q7	ハラスメント	ハラスメントの状況	A基準	95.1	
Q8		ハラスメントにつながりそうな状況・雰囲気	B基準	94.0	
Q9		Q8がyes→それが見られる場面	-	-	-
Q10		異性の競技者、指導者、関係者が二人きりになる状況	B基準	69.2	
Q11	ドーピング	アンチ・ドーピング規則違反行為の状況	A基準	100.0	
Q12		記録を伸ばすためには手段を選ばず使えば良いという雰囲気	B基準	96.9	
Q13	反社等	反社会的勢力との接触等	A基準	100.0	
Q14		社会的なルールやモラル等に反する行動が許される状況・文化	B基準	96.6	

	リスク基準	
	平均点の範囲	リスク度
A基準	100	低
	80以上 100未満	中
	80未満	高
B基準	80以上	低
	60以上 80未満	中
	60未満	高

シグナル緑：低リスク  
シグナル黄：中リスク  
シグナル赤：高リスク

# アンケート結果（2019年度日本代表選手団監督・コーチ等）

	枠組み	カテゴリ	基準	平均点	シグナル
Q1	暴力	暴力の状況	A基準	100.0	●
Q2		暴言の状況	A基準	100.0	●
Q3		暴力につながりそうな状況・雰囲気	B基準	100.0	●
Q4		Q3がyes→それが見られる場面	-	-	-
Q5		暴力は致し方ないという考え方・雰囲気	B基準	96.2	●
Q6		パフォーマンス不調によるプレッシャー・イライラからの暴力につながりそうな雰囲気	B基準	94.3	●
Q7	ハラスメント	ハラスメントの状況	A基準	100.0	●
Q8		ハラスメントにつながりそうな状況・雰囲気	B基準	100.0	●
Q9		Q8がyes→それが見られる場面	-	-	-
Q10		異性の競技者、指導者、関係者が二人きりになる状況	B基準	94.4	●
Q11	ドーピング	アンチ・ドーピング規則違反行為の状況	A基準	100.0	●
Q12		記録を伸ばすためには手段を選ばず使えば良いという雰囲気	B基準	100.0	●
Q13	反社等	反社会的勢力との接触等	A基準	100.0	●
Q14		社会的なルールやモラル等に反する行動が許される状況・文化	B基準	100.0	●

	リスク基準	
	平均点の範囲	リスク度
A基準	100	低
	80以上 100未満	中
	80未満	高
B基準	80以上	低
	60以上 80未満	中
	60未満	高

シグナル緑：低リスク  
シグナル黄：中リスク  
シグナル赤：高リスク

# アンケート結果（2020年度A会員）

	枠組み	カテゴリ	基準	平均点	シグナル
Q1	暴力	暴力の状況	A基準	100.0	●
Q2		暴言の状況	A基準	91.0	●
Q3		暴力につながりそうな状況・雰囲気	B基準	93.5	●
Q4		Q3がyes→それが見られる場面	-	-	-
Q5		暴力は致し方ないという考え方・雰囲気	B基準	95.3	●
Q6		パフォーマンス不調によるプレッシャー・イライラからの暴力につながりそうな雰囲気	B基準	93.5	●
Q7	ハラスメント	ハラスメントの状況	A基準	96.2	●
Q8		ハラスメントにつながりそうな状況・雰囲気	B基準	92.7	●
Q9		Q8がyes→それが見られる場面	-	-	-
Q10		異性の競技者、指導者、関係者が二人きりになる状況	B基準	78.0	●
Q11	ドーピング	アンチ・ドーピング規則違反行為の状況	A基準	100.0	●
Q12		記録を伸ばすためには手段を選ばず使えば良いという雰囲気	B基準	96.4	●
Q13	反社等	反社会的勢力との接触等	A基準	99.2	●
Q14		社会的なルールやモラル等に反する行動が許される状況・文化	B基準	98.2	●

	リスク基準	
	平均点の範囲	リスク度
A基準	100	低
	80以上 100未満	中
	80未満	高
B基準	80以上	低
	60以上 80未満	中
	60未満	高

シグナル緑：低リスク  
シグナル黄：中リスク  
シグナル赤：高リスク

# 結果の解釈について

- 2019年度日本代表選手と2020年度A会員のいずれも、「Q2 暴言」「Q7 ハラスメント」「Q10 異性の競技者、指導者、関係者が二人きりになる状況」のカテゴリが【中リスク】となっています
  - 複数の属性で同様の傾向が見られることから、上記3つの点について特に動向を注視していくことが求められます
- 2019年度日本代表選手と監督・コーチ等との間で、リスク判定結果に違いが生じています
  - 選手と指導者という立場の違いが回答内容の違いに影響している可能性があります
  - 他競技においても指導者から選手への暴力やハラスメントが問題となっていることから、指導者へのコンプライアンス教育を実施するなど、トラブルを未然に防ぐための対策が求められます
- どの属性の回答結果にも【高リスク】と判定されたカテゴリが無かったことから、フライングディスク競技では比較的高い水準でコンプライアンスが遵守されていると考えられます
  - 一方で、アンケートの対象期間が直近6ヶ月、すなわち2020年後半となっており、この期間は当協会主催事業等の各種競技活動が停止していたという点に留意する必要があると考えられます
  - 競技活動の再開後も継続的なモニタリングによる状況把握に努めることが求められます

# コンプライアンス遵守に関する当協会の取組みについて

- 当協会では、より安全、安心なフライングディスク競技環境の構築を目的に、「ハラスメント等に関する相談窓口（公益通報窓口）」を設置しています
- 公益通報とは、当協会に関係する個人及び登録または加盟する団体による、当協会定款や規程に違反する行為や各種ハラスメント等に関する通報や相談をいいます
  - このような行為を受けた、または見聞きした方は公益通報窓口の利用をご検討ください
  - 利用方法などの詳細は当協会WEBサイト（<https://www.jfda.or.jp/whistleblowing/>）にてご確認ください